SRE
EMBAJADA DE MÉXICO
EN JAPÓN

プレスリリース **063/18**

メキシコ人研究者が脳波で操作する３本目の腕を開発

2018 年 8 月 1 日、東京

メキシコ人研究者 Christian Peñaloza 氏と西尾修一氏をはじめとする京都の国際電気通信基礎技術研究所の研究者チームが脳波で操作するロボットアームの制御システムを開発しました。これにより動作能力の向上とマルチタスクの実現が可能になります。今回の進展により労働生産性が向上し、日常生活がより快適なものになることが期待されます。

脳性麻痺の障害を持つ人向けの脳波を用いた制御システムは既に存在していましたが、その多くは単一タスクのみしか実現できず、健常者向けとしては不十分なものでした。今回動作能力の向上を目的とした健常者向けのシステムが初めて設計され、同時に複数のタスクをこなすことが可能となりました。

Christian Peñaloza 博士はサンディエゴ州立大学でコンピュータエンジニアリングの学士号を取得、大阪大学で基礎工学研究科修士課程ならびに認知脳システム学研究部門博士課程を修了しました。現在は京都の国際電気通信基礎技術研究所の研究員であるとともに、大阪大学の知能ロボット学研究所（石黒研究室）のメンバーとして活動しています。また、IME（Instituto de los Mexicanos en el Exterior）によるプロジェクト“Capítulo Japón de la Red Global MX”の会長も務めています。

***